

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 南伊勢町	対談項目1 防災対策事業について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災対策の超長期的な課題として公共施設の高台移転は欠かせない。</li> <li>・ 高台移転する高台の確保が非常に難しい。</li> <li>・ 高台を造成することに対しての財政措置、制度を作っていたきたい。</li> <li>・ 緊急防災・減災事業債は期間が限定的。償還期間を長くしていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高台移転のためのハードルは2つ。</li> <li>・ ひとつは、特別強化地域の指定を受けないといけない。</li> <li>・ もうひとつは、集団移転促進事業でなければならない。</li> <li>・ 集団移転促進事業のハードルは高い。10戸以上で、住民全員の同意が必要。</li> <li>・ 公共施設は、10戸以上の集団移転を前提に、造成費も含めた先行移転ができる。</li> <li>・ 公共施設の個別移転については、強く国に言っていきたい。</li> <li>・ 緊急防災・減災事業債と同等の事業債について、全国知事会でも国に対する要望の最重点項目に置いており、国に対してしっかり要望していきたい。</li> </ul>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 南伊勢町	対談項目2 国道260号の整備について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道260号の2箇所について、防災道路の観点からお願いしたい。</li> <li>・ (船越地区は) 未改良区間であり、一車線しかなく、子供たちが通学している、あるいはお年寄りが利用する。700mくらいバイパスをつくり、防災道路として嵩上げすることができるのではないかと。</li> <li>・ (東宮 - 河内間は) ここは、南伊勢町で一番の峠道であり、カーブが多くセンターラインを越えて走行せざるを得ない。一次改良区間なので、昔は良かったが今の車の規格にあっていない。</li> <li>・ 中学校2校を平成26年4月に統合する。この区間が通学路になっており、道路が崩落すると迂回するのに2時間かかる。</li> <li>・ なんとか改良をお願いしたい。</li> <li>・ ここにバイパスを作ると高台が造れる。公共施設の移転に適している。若い人の定住住宅が作れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船越地区につきましては、現在、ルート検討を行っており、引き続き公図調査をおこなう予定です。</li> <li>・ 厳しい財政状況ではありますが、現在、事業中箇所の進捗状況も勘案しながら、事業着手の時期を検討してまいりたいと考えています。事業の実施にあたっては、南伊勢町や地元の皆様のご理解・ご協力が不可欠となりますので、ご支援をお願いします。</li> <li>・ 東宮～河内間については、一次改良済みの道路であるため、特に問題のある箇所について、局部的な線形改良等も視野に対応するなど、町と相談させていただきたい。</li> <li>・ 将来的な構想の部分については、その後よくお話をさせていただければと思う。</li> <li>・ 高台の造成については、トンネル工事において残土捨場の確保に苦慮しているところであり、町に高台用地等の造成計画があれば、積極的に連携させていただきたい。</li> </ul>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 南伊勢町	対談項目3 南伊勢ワイナリーと地産地消に向けて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイナリーはちょっとチャレンジなんです。</li> <li>・南伊勢町は、雨が多く暖かいので、ブドウの栽培には適してないと言われてるんですが、宮崎でも作っており、なんとか頑張ればできるかなと思っています。</li> <li>・ワインで地域活性化というよりも「地産地消」を進めたい。地元の新鮮な海の幸に合うワインを作りたい。</li> <li>・地元のワインで地元の物を食べる。6次産業化に繋がる観光拠点を今後整備していきたい。</li> <li>・南伊勢町として、サニーロードの目玉を作っていきたい。</li> <li>・県の普及所に大変お世話になっている。指導を受けながら進めているので、今後ともお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイナリーを設けて、ワインで地域活性化をしていこうという地域が非常に増えてきた。</li> <li>・ブドウの栽培には、夜間の気温が低いとか、雨が少ないとか、土壌がアルカリ性の方が適しており、南伊勢町の気候や土壌では難しいことがあるかと思いますが、地域の活性化の起爆剤としてみんなで協力して取り組んでいくんだと理解していますので、改良普及センターの普及員に言っていただければ、6次産業化の計画のお手伝いもさせていただきますし、あるいは、農林水産支援センターによるアドバイザー派遣も要請があればやらしていただきたいと思っています。</li> <li>・三重県内には、県産品を使ったこれぞというワインがまだないので、トップランナーとして（市場を）開拓されることを期待しています。</li> </ul>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 南伊勢町	対談項目4 障がい者のグループホーム設置計画の推進とその課題解決に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南伊勢町では、特に知的障がいの方のための施設が遅れている。現在、南伊勢町には、グループホームがない。</li> <li>・(障がい者の)親が高齢化してきており、子供の面倒をいつまでみれるのか、との思いが大変強い。(自分なき後は)グループホームでと思っている。</li> <li>・グループホームが設置できる土地を地域の人が寄付してくれたが、同じ敷地内に作業所とグループホームを設置することは基準に合わないという理由で許可が下りない。</li> <li>・国の基準、県の基準を緩和して(地域の)実情にあったようにしていただきたい。</li> <li>・個別の事情を聴いていただいてなんとかグループホームが設置できるようお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今からいろいろ言いますが、個別の相談を必ず受けます。</li> <li>・なぜ同じ敷地で、住居系のサービスと日中系のサービスを一緒にしてはあかんかという、県条例で決まっています。</li> <li>・「職住分離」をすることで、「地域との交流」を確保しましょう、閉じこもってしまわないようにしましょうという主旨です。</li> <li>・一方では、地域の実情もありますし、「親亡き後」については、皆さんが心配しているところです。</li> <li>・三重県が遅れている「障がい者の働く場」を少しでも確保していくという観点から考えれば、「地域との交流」をどう担保していくのかについては一定の議論をしていかなければなりません、杓子定規な回答は多くの皆様の善意を無駄にしたいと思います。</li> <li>・他県でもケースはあるので、障がい福祉課の方に相談していただきたい。</li> </ul>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 南伊勢町	対談項目5 建築物の用途別による尿浄化槽の処理対象人員算定基準(JISA3302-2000)の規定について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道事業を進めている中で、過疎の町では、ばらばらと住居があり合併浄化槽の方が好ましい地域があります。</li> <li>・南伊勢町は人口が減っていますが、世帯数は減っておらず、一人世帯が増えています。農業納屋や倉庫などは残っており面積はそのままなので、一人暮らし世帯に7人槽や10人槽の合併浄化槽を設置する必要があり、維持管理も含め過剰投資となっています。</li> <li>・下水道の需要をみながら、もう一度基準を作り直していただきたい。</li> <li>・飯高や大台は農山村地域で面積が広いが、南伊勢町は漁村地域で、密集して家が建っていて面積が狭い。平均ではない違う基準を入れていく必要があると思うので、さらに今後検討をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尿尿(しにょう)浄化槽の処理対象人員算定基準は、J I Sにより全国一律に定められています。</li> <li>・同基準の中で、「当該地域における住宅の一戸当たりの平均的な延べ面積に応じて増減できる」と規定されているため、三重県でも松阪市の飯高地区や大台町、熊野市、御浜町、紀宝町など5つの市町では、既に県と協議し、地域の実情に応じて算定人員を緩和しています。</li> <li>・伊勢建設事務所に、ご相談いただければと思います。</li> </ul>

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 南伊勢町	(当日追加項目)		<p>・地域の活力をどう維持していくかに尽きる。防災なら防災の政策だけでなく、全政策を通じてやる必要がある。南伊勢町だけでなく、熊野灘沿いのところは、過疎、高齢化、少子化、防災、地域活性化、若者定住はセットであるので、活性化局をつくっていただいたが、個別の縦割りではなくて、そういう目で一緒に議論になるようにしていただくとありがたい。</p>	<p>・グループホームの条例も、屎尿処理の条例も、ある一面からみれば、一定の妥当性があるがまちづくりの全体から見れば、どうなのかという規制もある。</p> <p>・南部地域活性化局は、地域という観点で横串で各分野を見るというのが本来の仕事なので、まだまだ十分そういう機能を果たせていないと思うが、機能していくように、我々も頑張りたい。</p>